

若狭湾水中散歩

番外編

京大水産
実験所 益田 琳爾

カナリア諸島 からの便り

読者の皆様、水中散歩の益田です。先月から、スペイン領のカナリア諸島へ来ております。カナリア諸島はスペイン本土から大西洋を二千キロ近く南下し、アフリカの西沖約百キロに出たあたりに位置します。水温六度の舞鶴の海から、気温も水温も二十度の当地へ来て、さながら浦島太郎の気分です。今回は番外編として、当地の様子をお便り

したいと思います。
海の見えるアパートを
借りて住み、海辺の道を
十分ほど歩いて研究所へ通つてい

コロンブスが立ち寄った港

は途中で釣りをしているの?」と聞くと、「フライパンで焼いて、ワイン飲んでいます。今朝まで研究所へ通つています。今日は朝と夕方はよく釣ら恐ろしくちやちな仕掛けでの投げ釣りをしていけるのですが、すでにバケツを見ると、ヨーロッパへダイ」という

訪問先であるラスバルマス大学の研究所は、ヨーロッパへダイといふと氣さくに教えてくれます。別のバケツを見ると、チヌやイサキに似た魚が七分目までセイゴ(ズキ)が入っています。可笑しいのが、誰か一人が釣り上

げるたびに、みんなで「アーボー」と大騒ぎすることです。月曜の朝八時。男六人。推定平均年齢六十歳。なんて元気なんだ。研究所の勤務時間は朝八時から午後三時までです。この時期でも夜七時ごろまでは明るいのです。午後の時間はそれぞれに海に潜つてみました。大西洋の東側なんて、見たことのない魚ばかりだろうと思いつきや、案外日本で見かけたカサゴやベラ、イサキに似た魚が多いです。透明度が高く、陸に目を向ければ白い壁の街並が点々と連なり、いよいよ「朝と夕方はよく釣れるね。昼はダメだな」

水中散歩の本題からは大きくなってしまいまし

たが、それではまた春の若狭湾でお会いしましょ

う。今月十五日に帰国します。

アメリカ大陸を発見する

旅路で、最後に寄つた港

と zwar 知られていました。バスの中での心温ま

と、スペインの大学院生が「あなたの論文、読んだよ」と話しかけてくれるのはうれしいです。

海に潜つてみましたが、すくと立つておばさんには席を譲るのです。

自分の娘ほどの女性にさつと席を譲るじいさんは、なんてかつていいん

だ。自分もあんなふうに元気でかつこよくて、

ちよつとえつちな感じのじいさんになると、心に誓つた光景でした。

マスの街へも行きまし

た。ここはコロンブスが

アメリカ大陸を発見する